



What IS IT?

ISIT: Institute of Systems, Information Technologies and Nanotechnologies

INDEX 今号の主な内容

- BODIK10周年(オープンデータコンテスト)..... P1
- ハッカソンコンテスト“Engineer Driven Day”2023を開催..... P2
- 福岡DXコミュニティ(fdx.community)2023年度総会を開催..... P3
- スキルアップのための実践研修
生成AIの業務への有効活用「生成AIとの上手な対話方法」..... P3
- One Kyushu DXコミュニティの取り組み..... P4
- 福岡で活躍するZ世代から学べ DXのヒント..... P4
- よろず相談「分析NEXT」相談事例紹介..... P5
- 第61回分析化学講習会(SEM/TEM、NMR)開催支援..... P5
- 小中学生向け夏休み体験実験を開催..... P6
- サイエンスカフェ@九大新町を開催..... P6
- 山田研究所長がCERI寄付講座で講演..... P7
- 令和4年度ISIT市民講演会「脱炭素社会の実現に向けて」..... P7
- 【福岡グリーンイノベーションチャレンジ】令和5年度採択企業決定について.. P7
- 新スタッフ紹介..... P8
- 賛助会員「法人・個人」のご紹介..... P8

BODIK10周年(オープンデータコンテスト)

令和5年度

公益財団法人九州先端科学技術研究所 (ISIT) が推進しているビッグデータ&オープンデータ・インシアティブ九州 (BODIK) は、2013年12月の設立から今年で10周年を迎えます。BODIK事業を推進する中では、地方自治体がオープンデータを公開するためのデータカタログサイト (BODIK ODCS) を運営するだけでなく、地方自治体がオープンデータを推進するために便利な様々なユーティリティ類*1も多数提供してきました。こうした取り組みの継続により、BODIK ODCSでオープンデータを推進している自治体は現在、261自治体 (13府県、248市町村) が正式に利用しており、公開準備やテスト利用で総計317もの自治体と関係し、九州の県市町村はもとより、近畿地方、関東地方、中部地方の自治体にまで広がりを見せています。

我々 ISITとしては、近未来のデジタル社会を目指していくにあたり、そのデジタル社会を大きく支えるデータ領域を牽引するためにデータ利活用推進を加速するべく、本年度、全国的なデータコンテストにBODIK賞*2を設けさせていただきました。

そのコンテストは、地域課題の解決を目的として主に地方自治体を中心とする公共データを活用したデータ活用型コミュニティづくりと一般参加を伴う作品コンテストで (一社) 社会基盤情報流通推進協議会 (AIGID) が主催するアーバンデータチャレンジ (UDC) 2023となります。コンテストにエントリーしている団体は、主にデータ利活用の現場と言われるシビックテックコミュニティ (例：福岡の場合、Code for Fukuokaなど) を中心に、北は北海道から南は九州沖縄までの全国的な規模となっております。UDC2023のキックオフは7月中旬に行われ、BODIK賞を全国に向けた発信を行い、更に同下旬にCode for Kyushu主催で全国向けにオンライン開催された「オープンデータを使ってみよう」イベントにおいてBODIK APIなど詳しい内容も配信しました。

このように全国的なデータ利活用の現場へBODIKの知名度を向上していくとともに、これまで蓄積してきたデータやBODIKのツールやユーティリティ類も含めて提供し、データの利活用を促進することにより、来るべきデジタル社会を支えるオープンデータ推進への貢献となることを期待しております。



BODIK API の講演を行う ISIT 平野真司



今年でBODIKの活動は10周年を迎えます!

*1 : <https://www.bodik.jp/project/bodik-utility/>



*2 : https://urbandata-challenge.jp/udc2023_entry



福岡市が取り組む「エンジニアフレンドリーシティ福岡」（以下、「EFC」）では「エンジニアが集まる、活躍する、成長する街、福岡」を目指して、エンジニアや企業と協力し、スキルアップや活躍できる機会を増やすなどエンジニアを取り巻く環境の充実に取り組んでいます。

EFCは令和4年度に引き続き「構想からモノづくりまでを一気通貫で行う」ハッカソン・コンテスト「Engineer Driven Day 2023」（以下、「EDD」）を開催しています。

EDDは、エンジニアに興味がある人からエンジニアとして活動している人まで、学生・社会人を問わず、福岡県にゆかりのある個人・チームが参加できます。応募製品の要件は、自ら開発したソフトウェアを含むこと（完成形態はソフトウェアでもハードウェアでもOK）です。

またEDDでは、キックオフイベント、メンタリングイベント、ハッカソンなどのイベントを開催し、各イベントでは企業の経験豊富なエンジニアがメンターとして参加するなど、参加者がエンジニアコミュニティから開発のサポートを受けることができます。

EDDの製品応募は9月25日に締め切り、その後、アイデア・技術・製品・成長といった視点で審査を行い、優れた製品を開発した個人・チームを表彰します。



ハッカソン・コンテスト

EFCでは、日々知識・技術の習得や技能向上に取り組み、企業や社会等に貢献する福岡のエンジニアの活動をより活発なものとし、またその活動を取り巻く環境を向上させていくことを目的として、EFCアワードを開催します。

令和5年度で5回目となるEFCアワードでは、福岡のエンジニアコミュニティ文化の発展に貢献する「エンジニアコミュニティ」や、エンジニアが働きやすい環境づくりや成長、交流促進につながる取り組みなど、エンジニアを取り巻く環境の充実に取り組む「企業」、さらにEDDで優れた製品を開発した「個人・チーム」を表彰します。

EFCアワードでは、「コミュニティ部門」と「企業部門」にエントリーしたコミュニティと企業の情報を10月上旬から下旬にかけてWebサイトに公開し、広く一般の方から“いいね”を受け付けます。

ぜひEFCアワードのWebサイトでコミュニティや企業の取り組みや活動をご覧いただき、「いいね」と共感したコミュニティ、企業の“いいね”ボタンをクリックして、応援してください。12月上旬にはEFCアワード3部門の表彰イベントを、福岡市中央区天神のエンジニアカフェにて開催する予定です。こちらのイベントもぜひご参加ください。



EFCアワード表彰式



EFCアワード

福岡DXコミュニティ (fdx.community) は2023年度の総会を6月23日にSRPセンタービルで現地参加方式にて開催いたしました。

事務局よりfdx.communityの現状会員状況や前年度のマッチング支援および第7回ふくおかDX祭りin SRPの活動報告がありました。合わせてワーキンググループ(以下WG)の取り組みについて「DXものづくりWG」、「Fukuoka Integration X WG」、「医療働き方改革WG」、「QDX WG」の各リーダーから事前にご提出いただいた資料に基づき報告いたしました。特に「医療働き方改革WG」は医療の2024年問題に対応するための働き方改革について当初目的のプロトタイプの開発が出来たことやその横展開が出来たことをもってWG活動を完了とする旨、報告がありました。fdx.communityの今後の活動の方向性に関しては全ての活動を強化するという方針で、One Kyushu DXとの共催による交流会・勉強会の開催やDXなんでも相談窓口の開設、地域IoT推進ラボの地域DX推進ラボへの変更を図るとの報告がありました。

基調講演は、福岡DXコミュニティ会長の村上和彰氏(九州大学名誉教授、株式会社DXパートナーズ シニアパートナー&代表取締役)に『「さがす」、「つながる」から「つくる」へ!新しい段階に入ったデジタル社会!われわれFDXはどこを目指すか?』と題し、ChatGPTのような生成系AIをどう利用すべきかに関してご講演をいただきました。次に関口智嗣氏(株式会社AIST Solutions 専務取締役)をお呼びして村上会長と『いま話題のデジタルライフライン全国総合整備計画。これを支えるプラットフォーム、どうつくる?』と題した対談をいただきました。対談の前には国立研究開発法人産業技術総合研究所が本年4月に設立したAIST Solutionsのご紹介もいただきました。

福岡市からは井手俊輔氏(総務企画局DX戦略部DX戦略課DX戦略係長)より『福岡市のDXの取り組みについて』で、行政手続きのオンライン化状況や市民にデジタルの恩恵や便利さを実感してもらう取り組みについてご報告いただきました。

またISITの活動紹介として川畑明理事・産学官共創ディレクターより『よろず相談「分析NEXT」のご紹介』を、上村幸大 イノベーション・アーキテクトより『One Kyushu DXのご紹介』をいたしました。



村上和彰 会長



村上会長と
AIST Solutions 関口智嗣 氏との対談



福岡市 井手俊輔 氏

スキルアップのための実践研修 生成AIの業務への有効活用「生成AIとの上手な対話方法」

令和5年度

生成AIは、画像、音楽、そして特に文章の生成を行う先進的な人工知能(AI)技術です。ChatGPTはそのテキストを生成するAIの代表例です。「プロンプト」と呼ばれる短い命令文を与えることで、関連する情報や回答を生成することができます。ChatGPTは、アイデアの創発、文章の生成や概要作成、翻訳、業務の効率化など多岐にわたる用途で活用が広がっています。特に「プロンプト」の質が高いと、より精度の高い出力が得られるため、その与え方が非常に重要となります。

この生成AIの効果的な使い方を学ぶ研修を、当研究所でも実施しています。この研修では、「生成AIとの上手な対話方法」というテーマで、ChatGPTの概要から効果的なプロンプトの与え方、対話AIの能力を最大限に引き出すヒント等を幅広く学ぶ事ができます。また業務で利用可能な実際のプロンプトを知る事ができます。

ISITは、新しい技術とその応用について地域社会や産業界に貢献することを目指しています。このような生成AIに関する研修もその一環であり、今後も開催予定です。興味を持たれた方は、どうぞお気軽にお問い合わせください。



経済産業省の令和4年度「地域新成長産業創出促進事業費補助金（地域DX促進活動支援事業）」の補助事業として、採択された全国27プロジェクトの1つとしてスタートしたOne Kyushu DX。現在では、250名以上の会員と一緒にコミュニティを盛り上げています。

このコミュニティでは、DX推進に悩む担当者が「DX-Ready」（DXに挑戦する担当者）になれるようサポートして参ります。それだけでなく、DXに挑戦した担当者が同じくDXに悩む担当者を助けるような「相互扶助のエコシステム」の世界を目指しております。

実際に参加しているDX推進担当者の声

- 「元々コミュニティ等への参加は苦手なタイプでしたが、OKDXの皆さんの優しさと情熱はまさに越境学習に最適な場だと感じています。地域企業のDX推進者として同じ悩みを持った方や先駆者とも繋がれたことで、今の自社のDX推進に繋がっていると思います。」
- 「DXとは何か?を学べる場所を探していて、One Kyushu DXにたどり着きました。セミナー内容についていけるか少し不安もありましたが、能力ある講師が基礎からわかりやすく教えてくれます。今では幅広い年齢層の仲間もでき、楽しく学んでいます。」



【OKDX会員申し込み】

DXに悩む担当者は、ぜひお気軽にお申し込みください

Web : <https://okdx.jp/> URL : <https://form.run/@okdx-1660715588>



OKDX 会員申込

福岡で活躍するZ世代から学べ DXのヒント

令和5年3月29日

福岡で活躍するZ世代（1990～2010生まれ）をゲストにお呼びして、令和4年3月29日に「福岡で活躍するZ世代から学べ DXのヒント」をハイブリッドで開催しました。

現地とオンライン合わせて100名の方にご参加いただき、「若い人から刺激をもらって頑張ろうと思った」「自社の若手人材への見方を変えるべきだと感じた」と言ったご意見もいただきました。その後の世代を超えた会場での交流会も、盛り上がりを見せ盛況のうちに終えることができました。

登壇者を一部ご紹介

- 福岡女子商業高等学校（生徒会長/キカクブ）

学校の魅力をTikTokで発信して、850万回再生! SNSで魅力を伝えると、私学化して一番の入学者数を達成した。

- 吉開のかまぼこ 代表取締役社長 林田 茉優 氏

大学在学時に「後継者未定問題」をテーマにしたプロジェクトを発足。吉開のかまぼこの後継者が見つからず、一度は廃業寸前まで陥ってしまう。しかし、「吉開さんのお客様を大事にする思いを実現させたい」という熱い想いから、自ら承継として会社を引き継ぐことを決意し、4代目社長に就任する。



イベントレポート

ISITでは、福岡市、九州大学、OPACKの四者で連携し、製品・材料等の分析・解析をもとにして課題解決を支援する相談窓口を開設しています。

研究や事業化経験豊富な幅広い分野の研究者やエンジニアが、福岡市産学連携交流センター（FiaS）や九州大学に多種ある分析機器も活用しながら、科学の視点から幅広く助言し支援を行います。相談は秘密厳守ですが、今回は相談者の許可を得て、相談事例について紹介させていただきます。

株式会社UPay様は米粉を主成分とする米ストローを製造・販売し現在注目を集めている企業で、今回は「米ストローの生分解性についての評価を行いたい」というご相談を受けました。通常、生分解性を評価しようとする高額な費用が掛かりますが、よろず相談メンバーとの打ち合わせで、安価に評価可能なコンポストや畑での分解の様子を他のストローと比較する実験を提案し、実行しました。その結果、米ストローは時間と共に分解され、土に還っていく行く様子を観察することができました。また、この様子はTV番組でも紹介されました。更に、他社品の米ストローとの比較を電子顕微鏡での観察や水に浸した際の形状変化で行い、自社製品の優位性を確認していただきました。得られた結果は今後の販路拡大に役立つという事で喜ばれておりました。

よろず相談「分析NEXT」では幅広い分野に対応して技術相談を受けておりますので、技術的なお困りごとがありましたらまずはお気軽にご相談ください。



※①プラスチック ②PLA（生分解性プラスチック） ③紙 ④自社製品（食品由来）

コンポストでのストローの生分解性評価実験の様子

相談窓口（連絡先）

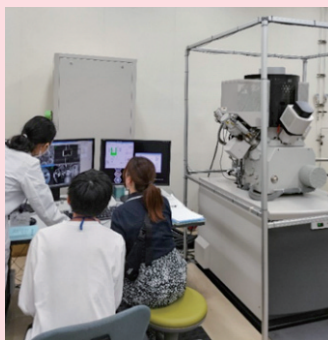
Eメール：bunseki@next-soudan.com 電話：092-805-3810

第61回分析化学講習会（SEM/TEM、NMR）開催支援

令和5年8月

例年8月に市内各大学・各キャンパスで開催されておりました公益社団法人日本分析化学会九州支部主催の分析化学講習会は、新型コロナウイルスの流行に伴い2020年度から中止が続いておりましたが、今年度より第61回分析化学講習会として再開されました。

福岡市産学連携交流センター（FiaS）も会場として提供されており、ISITは人材育成事業の一環で共催として参画し、8月1日と7日に開催された電子顕微鏡（SEM/TEM）及び核磁気共鳴分光法（NMR）の各講義と実習にて会場責任者として、会場の運営や実習指導員の派遣をするなど、共催者として講習会が円滑な開催となるよう支援しました。受講者が分析機器を実際に操作しながら学ぶ実践形式の講習会であったことから「分析装置の原理に加えて、操作法そして解析法などを詳細に知ることができて非常に有意義であった」との声が受講者から寄せられていました。今回担当しました二つの講習の受講者はコロナ禍前と比べて増加しており、実際に装置を操作しながら行う講習会の重要性を再認識する機会となりました。



小中学生向け夏休み体験実験を開催

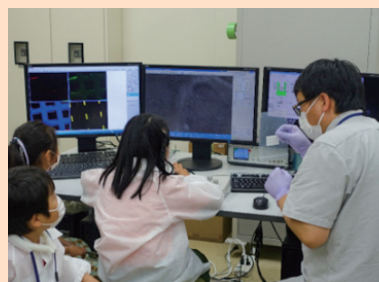
令和5年8月5日

ISITは九州大学と福岡市産学連携交流センター（FiaS）指定管理者（西鉄ビルマネジメント株式会社）と連携し、小中学生向け夏休み体験実験「小さな生きもの大きな可能性：昆虫に学ぶバイオテクノロジー」を8月5日（土）に共同開催しました。

当日は、親子19組（児童20名）が参加し、まず座学（レクチャー）として、九州大学大学院 工学研究院の神谷典穂教授より「ホテルのお尻にまつわるバイオテクノロジー」について、また、農学研究院の門宏明准教授より「昆虫と私たちの生活 ～蚕で作るワクチンのお話～」について、ご紹介いただきました。続いてISITからは、産学官共創推進室の吉原大輔イノベーション・アーキテクトより「顕微鏡で見てみよう！～最先端顕微鏡体験について～」の紹介を行いました。

その後の体験実験では、九州大学主導のもと、ホテルのお尻で化学エネルギーを光に変える酵素を使った発光の観察実験や、その酵素を応用した目に見えない細菌などを評価するATPふき取り検査試験を行ったり、ISIT主導のもと、電子顕微鏡など最先端の顕微鏡を実際に操作してもらいながら、昆虫などの生き物や文房具など身の回りの様々な素材を観察し、ナノの世界を体験したりしました。

参加した児童は、拭き取り検査で、より光らせようと、汚れたところを探しまわったり、顕微鏡の操作ダイヤルをどんどん回してとにかく拡大したりと、楽しそうな様子が伺え、盛況のうちに終わることができました。



サイエンスカフェ@九大新町を開催

令和5年3月29日

令和5年3月29日（水）、ISITは、福岡市産学連携交流センター（FiaS）交流ホールを主会場としたハイブリッド形式（オンライン併用）で、サイエンスカフェ@九大新町を開催しました。これは、令和4年7月までFiaSで共同開催しておりましたFiaS Monthly Caféをリニューアルしたものにになります。

第1回目となる今回は、シリーズ“資源”として、ISIT産学官共創推進室の河済博文特別研究員より「プラスチックリサイクルをしつこく考えてみる」という演題で話題提供を行いました。続けて、違う専門・異分野の視点からのコメント等も交えながら自由に討論・意見交換することを目的とした時間では、学生も含め、会場より意見・質問が寄せられ、活発な討論が行われました。

会場となったFiaSの隣りで、研究開発次世代拠点「いとLab+」（いとラボ・プラス）が令和5年4月に開業したことを受け、今後、同拠点とも連携しながら取り組みを進めて参ります。



河済博文特別研究員



会場の様子

山田研究所長がCERI寄付講座で講演

令和5年5月13日

一般財団法人化学物質評価研究機構（CERI）と九州大学大学院工学研究院 応用化学部門による公開講座（寄付講座）として「先端材料科学 ～設計、構造・物性から機能化まで～」が福岡市産学連携交流センター（FiaS）交流ホールで開催されました。5月13日（土）の令和5年度 前期講座（全14講）において、またもトップバッターとして、山田淳研究所長が「プラズモンナノ材料」という演題で講演いたしました。

当日は、ISIT マテリアルズ・オープン・ラボ（MOL）・ナノ材料グループで研究開発を行うプラズモンナノ材料について参加者からも多数の質問をいただき、その基礎から応用まで幅広く知っていただく機会とすることができました。



令和4年度 ISIT市民講演会 「脱炭素社会の実現に向けて」

令和5年3月7日

令和5年3月7日に再生可能エネルギーとして注目される風力発電の最新状況や身近な省エネ等による脱炭素についてわかりやすく説明する講演会を現地会場とオンラインでのハイブリッド形式で実施しました。

まず九州大学名誉教授で株式会社リアムウィンド代表取締役の大屋裕二氏から「分散型エネルギー社会の展望と風力エネルギー利用による地域活性」と題して講演していただきました。今後、風力エネルギーを利用してどのようなエネルギー社会へ変化していくかなどについて話されました。

つぎに九州大学大学院人間環境学研究院の教授である尾崎明仁氏より「脱炭素社会の実現に向けた都市・建築の取組み」と題して講演していただきました。スマートシティやゼロ・エネルギー建築などグリーン社会の実現に向けた都市・建築の最新動向などについて話されました。

当日は現地とオンラインの合計で101名の参加があり、脱炭素に対する関心の高さが伺えました。



大屋裕二氏



尾崎明仁氏

【福岡グリーンイノベーションチャレンジ】 令和5年度採択企業決定について

令和5年度

福岡グリーンイノベーションチャレンジ補助事業は脱炭素の分野をビジネスチャンスと捉え、カーボンニュートラルに資する製品開発等の新たな事業を展開する中小企業等を支援し、グリーンイノベーションを推進することを目的としています。下記のとおり、令和5年度の採択事業者5社が決定しました。ISITは採択事業者の補助事業の管理業務および伴走支援を進めてまいります。

採択事業者5社

- (1) 日本乾溜工業株式会社 『CVT乾燥機を用いた竹チップ乾燥手法と乾燥竹繊維の新たな活用法の検討に関する研究』
- (2) オングリットホールディングス株式会社 『高所作業車の使用減に伴う温室効果ガスを削減するための「インフラ監視システム」実用化に向けた開発（前年度より継続）』
- (3) 九州計測器株式会社 『苗木育苗用水分管理システム』
- (4) 株式会社エース・ウォーター 『省エネルギー型輻射式空調設備の「負荷計算要領の確立」及び「製品改良」』
- (5) collEco株式会社 『生成AIを用いたアパレル事業者向けバーチャルモデルSaaS/EC用画像生成プラットフォーム』



評価委員会の様子

新スタッフ紹介

令和5年7月1日より、ISITオープンイノベーション・ラボに着任しました宇都宮清司と申します。

出向元の九州電力(株)では、主に変電設備の劣化及び異常兆候診断手法に関する研究を行ってまいりました。今後はISITの一員として、DXと言う新たな分野へ挑戦でき、ワクワクしております。これから福岡を拠点とした地元九州の活性化のために、少しでもお役に立ちたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



令和5年4月1日よりオープンイノベーション・ラボに着任しました西依美由紀（にしよりみゆき）と申します。ISIT入所前は、製鉄機械商社や半導体装置製造メーカー、金融機関等でバックオフィス業務に携わってまいりました。専門家集団であるISITを実務の面でサポートし、また、広報チームの一員としてこれまで以上にISITの活動を広く知っていただけるよう尽力いたします。どうぞよろしくお願いいたします。



賛助会員《法人・個人》のご紹介

新規賛助会員

株式会社オーイーシー様

創業57周年を迎えるIT企業。お客様一人ひとりに寄り添ったDXを推進しております。

賛助会員募集

ISITでは、賛助会員の募集を行っています。

会員特典

1

ISITの技術コンサルティング料金を割引

会員特典

2

コミュニティスペースや会議室で
設備・備品が利用可能

会員特典

3

ISITホームページで紹介（リンク等）

会員特典

4

活動報告書、活動レポートの送付等

詳細はこちらまで！ ISIT総務部

TEL:092-852-3450・FAX:092-852-3455

E-mail:isit-soumu@isit.or.jp

ISITでは、定期交流会や各種セミナーの情報などを配信しております。メールマガジンのお申し込みはホームページからお手続きいただけます。

<https://www.isit.or.jp/about/publication/mailmagazine/>

発行

公益財団法人 九州先端科学技術研究所 ISIT

Institute of Systems, Information Technologies and Nanotechnologies

〒814-0001 福岡市早良区百道浜2丁目1-22
〈福岡SRPセンタービル5階〉

Fukuoka SRP Center Bldg 5F
2-1-22, Momochihama, Sawara-ku, Fukuoka City 814-0001

TEL 092-852-3450 FAX 092-852-3455

URL: <https://www.isit.or.jp>

編集: ISIT事業調整部

制作: 株式会社西日本高速印刷



賛助会員入会のご案内

当財団の事業目的に賛同して頂ける方
(企業/団体/個人等)の賛助会員入会を募集中



主な特典

1. ISIT主催のセミナー・交流会を優先的にご案内
2. コンサルティング(技術相談等)の初期相談が無料
3. ホームページで会員紹介(リンク等)
4. その他活動報告書や活動レポートの送付



当財団は、システム情報技術、ナノテクノロジーなどの先端科学技術分野において、九州地域における共創の場を提供し、社会実装や社会実証、産業界のニーズと大学等研究機関等のシーズをつなぐ開発研究を産学官連携の下で推進するなど、産業の振興と経済社会の発展に資する様々な活動・事業(公益目的事業)を行っています。

産学官連携プロジェクト (H30.4現在)

- 福岡市IoTコンソーシアム (FITCO)
- ビッグデータ&オープンデータ・イニシアティブ九州 (BODIK事業)
- SRPオープンイノベーションラボ
- 分析・解析よろず相談事業 (分析NEXT)
- ふくおか産学共創コンソーシアム

など

詳細：<https://www.isit.or.jp/project/>



II 産学官連携による新産業・新事業の創出支援事業

受託/共同研究・事業

プロジェクト型研究・事業

I 研究開発事業

定常型研究・事業

V 人材育成事業

III コンサルティング事業

IV 情報収集・提供事業

VI 内外関係機関との交流・協力事業

【入会申込・お問合せ窓口】

当研究所 総務部 Tel : 092-852-3450 Fax : 092-852-3455

E-mail : isit-soumu@isit.or.jp

〒814-0001 福岡市早良区百道浜2丁目1番22号 福岡SRPセンタービル5階

賛助会員入会申込書

公益財団法人九州先端科学技術研究所 宛

貴研究所の事業目的に賛同し、賛助会員として入会を申し込みます。

年 月 日

ふりがな			
団体名 又は氏名	※法人会員の場合は団体名、個人会員の場合は氏名を正式名称でご記入ください。当研究所のWEBに掲載させていただきます。		
代表者氏名	※個人会員の場合は記載不要		印
住所	〒		
電話番号	※法人会員の場合は代表番号をご記入ください。	FAX番号	
入会理由 ※複数選択可	1. 研究開発内容に関心あり 2. 共同研究/共同提案等の実施等 3. コンサルティング(技術相談等)の活用 4. セミナー・交流会等の活用 5. 情報収集等 6. その他()		
申込口数	※番号に○をつけて、申込み口数をご記入ください。 1. 法人会員 <input type="checkbox"/> (6万円/口) 2. 個人会員 <input type="checkbox"/> (1万円/口)		
メールアドレス	※各種セミナーや講習会などのご案内や賛助会員様への連絡等をお送りする宛先になりますので、必ずご記入ください。		
WebページURL	※当研究所のWEBでのリンク設定を希望されない場合は、□にチェックを入れてください <input type="checkbox"/> 当研究所の賛助会員ページに上記URLをリンクすることに同意しません。		
※団体(法人会員)での申込みの際は以下もご記入ください。			
担当部署名			
担当者名		電話番号	
備考			